

氏 名 肥後 すみ子
授与した学位 博士
専門分野の名称 博士(保健学)
学位授与番号 甲第 4795 号
学位授与の日付 平成 25 年 3 月 25 日
学位授与の要件 保健学研究科 保健学専攻
(学位規則第 5 条第 1 項該当)
学位論文題目 再灌流療法を受けた急性心筋梗塞患者の入浴による生体反応
論文審査委員 小田 慈、西田 眞壽美、岡本 玲子

学位論文内容の要旨

経皮的冠動脈形成術（再灌流療法）を受けた成人の急性心筋梗塞患者（AMI 群：19 名）と同年代の健常群（19 名）を対象に入浴時の生体反応を比較した。入浴は一般に安全と言われている手順を踏襲し、身体を洗う 2 分 30 秒間の前後に 40℃の湯に 3 分間ずつ 2 回、第 4 肋間の高さまで浸かる方法（総所要時間 15 分間）で行った。入浴の評価指標には血圧、心拍数、自律神経活性、口腔温、快適感（VAS）、Borg 指数を用いたが、血圧を除くいずれの群間比較でも有意差を認めなかった。ところが、個々のデータを詳細に分析すると、1 回目の入浴直後に収縮期血圧が 30mmHg 以上上昇したものは健常群では 2 名だったのに対して、AMI 群では 6 名いた。また、血圧には著明な変動はなかったが、心室性期外収縮（PVC）が増加したものが AMI 群に 3 名いた。これらの患者は Lown 分類では Grade2 の比較的軽症の PVC 判定であったが、左室駆出率に中等度障害があった。こうした AMI 患者にみられた入浴時の異常の原因は不明だが、少なくとも入浴前に入念に病態と循環動態を把握すること、そしてより安全な入浴方法を検討する必要があることが示唆された。

論文審査の結果の要旨

論文審査要旨：再灌流療法を受けた急性心筋梗塞患者19名を対象に、術後の初回入浴時の生体反応について、幾つかの角度から検討を行った研究である。入浴方法・手順を統一し、19名の健常者を対象群として解析を行っている。群として有意差が認められた生体反応項目は明確にはできなかったが、個々の急性心筋梗塞患者においては心室性期外収縮の増加などの所見を示すものがあり、少なくとも入浴前に病態と循環動態を把握する必要があること、より安全な入浴方法の検討が必要であると結論づけている。論文として、対象群の設定、本研究において使用された生体反応の選択などについて若干の問題点があるように思われるが、当研究科における博士課程後期の学位審査における認定基準には合致していると判断された。